

The JIKKEI

2012 Winter Vol.18

特集

新青戸病院 東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター開院



東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター竣工

平成23年10月31日、新青戸病院が竣工し、平成24年1月5日には「東京慈恵会医科大学葛飾医療センター」として開院した。建物は、地上9階建て、延べ床面積29,178㎡。鉄骨造りで免震構造が施され、大地震が発生時の災害拠点病院として診療機能が継続できるように設計されている。1階には救急部、総合内科、小児科を集約した「プライマリーケア ユニット」の設置など、「地域と共生し、進化・創造し続ける病院」をテーマに、大学病院として、地域の中核病院として医療圏のランドマークになることが期待されている。

Contents

巻頭言 1p 東京慈恵会医科大学葛飾医療センターの開院を迎えて……理事長・学長 栗原 敏

特集 2p 新青戸病院 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター開院……伊藤 洋

MEMORIAL 7p ふくしま自治研修センター／東京都からの感謝状贈呈

8p 東日本大震災における本学の災害医療 ……大槻 穰治

9p 慈恵医大災害医療チーム紹介
慈恵医大災害医療チームが被災地へ出発する際に撮影した各チーム毎の集合写真をご紹介します。

慈恵最前線 10p 心房細動に対するカテーテルアブレーション治療 ……山根 禎一
心房細動根治に向けた取り組みと今後の課題

視点 12p 学士課程における看護基礎教育を考える ……櫻井美代子

研究余話 13p 常在菌による病原性黄色ブドウ球菌の定着阻害 ……水之江義充
バイオフィルム破壊因子による黄色ブドウ球菌の排除

随想 14p 医学教育雑感 ……中川 秀己
今こそ求められるモラルの卒前教育

学内めぐり 15p 女性医師キャリア支援室 ……川瀬 和美

施設・設備 16p 本院CCU・血管撮影室 ……南井 孝介

The JIKEI NEWS FLASH 17p 新任教授紹介／東京慈恵会医科大学音楽部第100回定期演奏会／看護学科開設20年記念行事 など

生涯学習 26p 各種セミナーや研修会への取り組み

BULLETIN BOARD 27p 行事

28p 補助金・助成金

29p 公示

30p 学事・慶弔

31p 東京慈恵会公報／東日本大震災被災者救援金の報告と御礼

32p 学校法人 慈恵大学 行動憲章／行動規範

33p 創立百三十年記念事業募金
寄付者名簿
ご寄付のお礼

■平成24年(2012)主な行事予定

- 1月5日(木)**
新年挨拶交歓会
(午後4時から大学1号館講堂)
- 1月7日(土)**
同窓会・父兄会新年名刺交換会
(午後4時から愛宕山東意イン1階[愛宕])
- 1月21日(土)**
国領校・看護学科教員最終講義
(午後1時から国領校本館1階講堂)
- 1月28日(土)**
大学院医学研究科博士課程平成24年度入学試験(二次募集)
- 1月31日(火)**
医学科教授退任記念講義
(午後2時から大学1号館講堂)
医学科教授退任記念パーティー
(午後6時から東京プリンスホテル マグリア ホール)
- 2月5日(日)**
医学科平成24年度第1次入学試験
(午前10時から筆記試験)
- 2月10日(金)**
看護学科平成24年度第1次入学試験
(午前10時から筆記試験)
- 2月11日(土)・12日(日)・13日(月)**
第106回医師国家試験(3日間)
- 2月13日(月)**
医学科教授会議(臨時)
(午後2時より高木会館5階B会議室)
医学科平成24年度第1次入学試験合格発表
(午後3時)
看護学科平成24年度第1次入学試験合格発表
(午後1時)
- 2月14日(火)**
看護学科平成24年度第2次入学試験(面接)
- 2月16日(木)**
看護学科平成24年度入学試験合格発表
(午後1時)
- 2月17日(金)**
第98回保健師国家試験
成医会第1257回例会
(午後6時より大学1号館講堂)
- 2月18日(土)・19日(日)**
医学科平成24年度第2次入学試験
(面接:2日間)
- 2月19日(日)**
第101回看護師国家試験
- 2月22日(水)**
医学科教授会議(臨時)
(午後2時より高木会館5階B会議室)
医学科平成24年度入学試験合格発表
(午後3時)
大学院医学研究科博士課程合格発表
(午後5時30分)
- 3月9日(金)**
第87回医学科卒業式・第17回看護学科卒業式(午後1時30分から中央講堂)
- 3月19日(月)**
第106回医師国家試験合格発表(午後2時)
- 3月26日(月)**
第98回保健師・第101回看護師国家試験合格発表(午後2時)
- 4月3日(火)**
平成24年度大学院入学式
(午前10時から)
- 4月5日(木)**
平成24年度医学科・看護学科入学式
(午後2時から中央講堂)
入学式終了後、新入生父兄の施設見学(大学1号館)および歓迎会(4階学生ホール)
- 4月6日(金)**
医学科・看護学科1年生オリエンテーション
(午前9時より国領校)
- 4月7日(土)・8日(日)**
医学科・看護学科新入生宿泊研修
- 4月29日(日)**
京都府立医科大学定期懇話会・レセプション・懇親会
- 5月1日(火)**
創立記念日
- 6月2日(土)**
父兄会春期総会(午後3時から国領校620講堂)、懇親会(午後4時30分からペラ食堂)
- 6月9日(土)**
実験動物慰霊祭
(午後3時から大学1号館講堂)

【巻頭言】



理事長・学長 栗原 敏

東京慈恵会医科大学葛飾医療センターの開院を迎えて

平成23年10月31日、新青戸病院が竣工しました。竣工式を挙行しその後、新病院を内覧して頂きました。新青戸病院は、本年1月5日、東京慈恵会医科大学葛飾医療センター(略称、慈恵医大葛飾医療センター)と改称して開院しました。慈恵医大葛飾医療センターは、地域の皆さまの医療ニーズに応えることができる病院、来院された患者さんを全人的に診る病院、医療者の卒前・卒後教育の実践にふさわしい病院を目指しています。青戸病院のリニューアルに関しては、いろいろな意見がありました。葛飾区、東京都、地域住民の皆様など関係者の心温まるご理解とご支援を頂き、竣工したことは感慨深いものがあります。

慈恵医大葛飾医療センターの特徴の一つとして、1階にはプライマリーケア ユニットを設け、救急で来院された患者さんに、救急医、総合内科医、小児科医が、迅速かつ適切に対応できるようなシステムにしました。来院された患者さんをプライマリーケア ユニットで受け入れ、診断・治療を行います。必要があれば、2階で専門医が対応するというシステムです。専門医が多い大学附属病院では、様々な疾患に対応する総合診療(プライマリーケアなど名称はいろいろあります)を実践することが難しいのですが、本学の特色である医療者間の連携を密にして、患者さん中心の医療を実践します。また、他の地域医療機関との連携にも十分配慮し、周辺医療機関との円滑な連携を図

り、地域に密着した病院としての役割を果たします。この医療センターは医科大学の使命である医師、看護師などの医療人の育成にも活用できるよう、教育施設の充実を図りました。医師、看護師、その他のコ・メディカルスタッフだけでなく、医学生、看護学生の研鑽の場としても活用されます。

慈恵医大葛飾医療センターは災害を考慮して、地下室を作らず、電気室等の病院機能を支える施設は屋上に配置しました。医療センター周囲の道路は拡幅され、また、路線バスが青砥駅との間で運行されており利便性が一層向上しています。医療センターからは四季折々の多様な風景をうつし出す中川と、東京の新たな名所となるスカイツリーを眺望できます。来院される患者さんの心を和ませることでしょう。多くの方から愛される医療センターとなるように、教職員一同、努力していく所存です。

昨年は、東日本大震災とそれに伴う放射能汚染、台風15号とその後の大雨による土砂災害など、天変地異の多い年となり安全と安心の確保が重要な課題となっています。本学も防災体制を見直し、災害に備えています。このThe JIKEIでは、東日本大震災の折に、大学が災害医療チームを派遣して、社会貢献したことが詳しく報告されています。これからも、医科大学としての社会的責任を果たせるよう、一層、努めていきたいと思ひます。

特集

新青戸病院 東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター開院



平成24年1月5日、慈恵大学が待望する東京慈恵会医科大学葛飾医療センターが開院いたしました。日頃からご支援、ご協力いただいております皆様、そして、このリニューアル事業に携わってくださった皆様のご尽力の賜物と、心から深く感謝申し上げます。開院に際し、皆様からは、祝賀のおことばとともに当院への期待と激励のおことばを多数頂き、改めて、地域社会における当院の役割とその責任の重さを実感しました。今後も地域の方々のニーズに応えることのできる地域中核病院であり続けることを身の引き締まる思いで、再認識した次第です。



葛飾医療センター
院長 伊藤 洋

開院に先立ち、平成23年10月31日、関係者総勢197名にて、新病院の竣工式が厳粛に執り行われました。施主を代表して、栗原理事長をはじめ大学役員や教職員、慈恵医大同窓会役員が参列しました。来賓としては、青木葛飾区長など行政関係者、地元選出の国会議員や区議会議員、地元自治会、施工関係者の方にご臨席賜りました。神事では、参列者全員が新病院の竣工に感謝し、建物の堅固安全と本学の発展を祈念いたしました。次に竣工披露のテープカット、院内を内覧していただいた後に、竣工を祝賀する直会が、施主である栗原理

事長の挨拶で開宴しました。

11月1日・2日は、新病院を披露する内覧会を開催し、総勢1,275名の方に新病院を披露いたしました。当日は、新病院の講堂で建築概要の説明をした後に院内を内覧していただきました。皆様からは、震災対策、浸水対策、防火対策を施した建物構造、患者さんのアメニティーを重視した院内の療養環境に大変好評を得ました。とくに、清潔感にあふれ、温かみのある病室、そして、そこから眺める中川の風景、東京の新名所となるスカイツリーの景観に感銘を受けられ、患者さんの心の癒しになるとの感想をいただきました。



▲定礎除幕式



▲竣工式(神事)



▲竣工式(直会)



▲内覧会

ここで「東京慈恵会医科大学葛飾医療センター」の特徴を説明いたします。

断らない救急(医療の原点を再認識した病院)

二次救急医療を必要とする地域の患者さんに積極的に対応するため、1階に救急部、総合内科、小児科の外来を集約し、三者が協力して対応する「プライマリーケア ユニット」を設置しました。救急車で搬送される患者さんや救急状態で自从来院される(ウォークイン)患者さんに迅速に対応することで、目の前で病に苦しんでいる患者さんにいち早く手を差しのべるという医療の原点に立ち返り、患者さん中心の救急医療を実践します。

総合診療の強化(病気を診ずして病人を診る病院)

私たち医療者にとって、患者さんの身心の痛みに共感し、患者さんと接することが求められます。プライマリーケア ユニットの一部に総合内科の外来を置き、専門各科と協力して診療を行い、「全人的」に患者さんを診療します。総合内科のマンパワーをさらに充実させ、病んでいる「臓器」のみを診るのではなく、「全人的」に患者さんを診る総合診療体制を強化したことで、あらゆる病態に対応する初療(プライマリーケア)を充実させます。

オープンシステム(地域に開かれた病院)

「地域に開かれた病院」として、地域の病院や診療所、あるいは福祉施設との円滑な連携を図ります。そして、地域の先生方とのメディカルカンファレンスや各種勉強会をさらに充実させて「顔の見える」医療連携を推進します。また、地域の方々への公開講座や広報誌等を通じて、健康増進や疾病予防

の情報提供等に努め、より「開かれた病院」を目指します。

一方、「入退院・医療連携センター」では、入院患者さんの状況を医学の見地のみならず、社会的・精神的背景も含めてしっかりと把握し、患者さんにとって最適な医療が受けられるよう、医療支援を行ないます。

実践教育・生涯教育(みんなで学ぶ病院)

シミュレーション教育施設、メディアセンター、講堂など、学べる環境を数多く創設しました。生身の患者さんと向かい合う医療者には、全人的・総合的な医療教育として系統的で質の高い教育が必要です。刻々と進歩する医学をキャッチアップするための生涯学習や、医師、レジデント、研修医、医学生、看護師、看護学生、薬剤師や技師を目指す学生などの教育をさらに充実させ地域医療を担う医療人の育成に努めます。



▲講堂

ヒューマニティ・アメニティ(患者さんにやさしい病院)

建築計画では、病気に立ち向かう患者さんに最適な環境で療養していただくためにアメニティを重視しました。隣接する川や緑地、東京スカイツリーなどの景色で疾患と闘っている患者さんが少しでも癒されるように部屋の配置や環境設備に建築的な工夫を施しました。病室の窓からは、桜並木や夏の花

火大会など四季折々の風景や葛飾のレトロチックな街並みがパノラマで楽しめます。また、患者さんのプライバシーを配慮するため、個室や個室感を高めた4人室の割合も多くしました。小児科病棟では、病棟内に「水滴や水泡」、「水紋」をデザインした床やドア、照明で子供たちの気持ちを和ませる配慮をしました。エントランスホールの吹き抜け部分には、季節の移ろいなどを表現する「光壁」を設置して、患者さんに癒しの空間を提供します。レストランは、安らぎ空間で川の流を見ながら、ゆっくり食事が楽しめるレイアウトにしました。



▲レストラン

先進医療(質の高い医療を提供する病院)

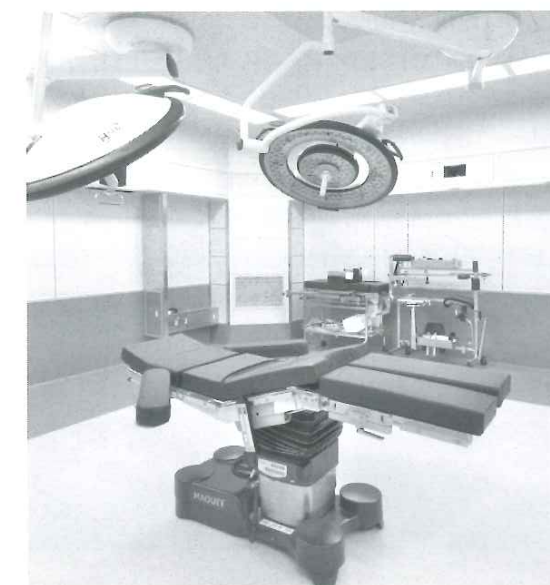
質の高い医療の提供は、大学病院、地域の中核病院として期待される課題です。このクラスの病院として最多の8つの手術室と同フロア内に設置した血管内治療室は、ハイスペックな治療ユニット(Operating Theater)として機能します。手術室は、1室を除き7m×7mの同一規格で、各科のあらゆる術式に対応します。そのうちの4室は内視鏡手術にも対応しており、様々な内視鏡手術にも柔軟に対応するハイビジョンの光学ユニット、複数のモニターが設置されています。また、血管内治療室は、心臓・脳・体幹・四肢など、すべての領域の血管内治療に対応します。



▲小児科病棟



▲エントランスホール



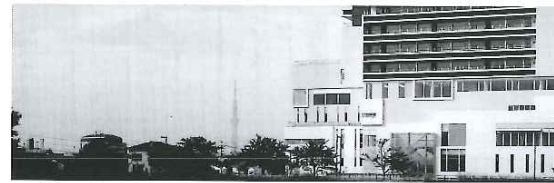
▲手術室

ふくしま自治研修センターから本学の 教職員派遣(医療支援)に対し、感謝状が贈呈されました

安全で安心な医療(安全で安心な病院)

「患者さんの安全はすべてに優先される」を最大のポリシーとして、安全で安心な医療を実践します。すべての教職員及び関係者が、より安全な医療の提供を再認識し、安全に対する意識を育み、関係法令を遵守した改善・改革を推進しています。今後も医療安全に最大限の配慮をいたします。また、より複雑化した医療に対応しながら患者さんの安全をより高いレベルで維持し、「安全」「確実」「迅速」「安心」な病院運用を目指すため、電子カルテを中心とした病院情報システムを導入しました。患者さんの情報の共有化と伝達の高速化を図り、バーコード管理による誤薬防止の認証システムなどの採用で患者さんの安全を担保しながら、安心して診療に専念できます。患者さんと診療に携わる教職員にやさしいシステムを構築していきます。

次の通過点としては、今年秋までに、新病院を安定稼働させながら、既存病院の解体及び外構(駐車場、ロータリー)を含む周辺環境の整備を終えることをリニューアル事業の節目としています。しかし、私たちのゴールは、リニューアルを通して当院のビジョンを実現させることにあります。「地域に根ざし、全人的に患者さん本意の医療を提供する。そして、医療者の卒前・卒後教育の実践にふさわしい病院として、進化、創造し続ける病院であること」が私たちの使命であると自覚しております。今後も慈恵医大葛飾医療センター教職員一同、懸命に取り組んでまいります。引き続きご支援ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。



▲葛飾医療センターと東京スカイツリー

平成23年8月1日、病院⇄青砥駅を結ぶバス路線が開通

平成23年7月30日、運行開始に先立ち、病院⇄青砥駅を結ぶバス路線の運行開始記念式典が執り行われ、栗原理事長をはじめとする大学関係者、地域関係者の方々によりテープカットが行なわれました。

既にご覧になられた方も多いと思いますが、爽やかな青空をバックに微笑む看護師さんのデザインをラッピングした直通バスが患者さんをやさしく送迎します。町中では笑顔で



▲テープカット

バスに手を振ってくれる方もいらっしゃいます。優しさも運ぶバスの誕生です。まだ乗車されていない方は是非ご利用下さい。

利用状況は日を重ねる毎に増加傾向にあり、状況によっては、便の増発もあるとのこと。また、バスの運行状況が確認できる「京成バスナビ」が利用できますので、携帯電話やパソコンからバスの運行状況が確認できて便利です。



▲ラッピングバス

平成23年9月2日(金)、ふくしま自治研修センターの木戸利隆所長と吉成宣子副所長が来校され、東日本大震災後の3月21日から4月30日までの本学教職員派遣(医療支援)に対し、内堀雅雄理事長(福島県副知事)からの感謝状が贈られました。

木戸所長から、「被災当初は行政側の医療供給体制における調整機能が働かず、医療支援も難しい状況の中で、大槻准教授が中心となってコーディネーターの役割を果たしていただき、派遣された教職員の方々が被災者へ心身のサポートをしてくれたことは、とても心強く安心でした」との感謝の言葉をいただきました。

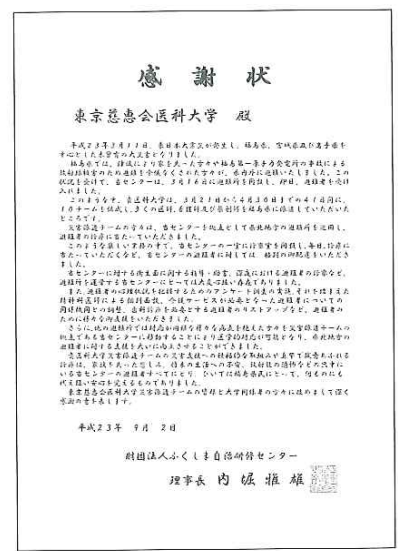


▲木戸所長(左)、栗原理事長(中央)、森山院長(右)

栗原理事長から、「福島県では原発事故による恐怖、子供たちへの健康被害、産業の復興など、まだまだいくつもの課題がありますが、今後も支援を続けていきたい」とのお話がありました。

森山院長から、「現在は本学をはじめ全国の大学から被災地の病院に対し、継続して医療支援が行われている」との説明がありました。

なお、福島県県北地域は、現在では地域医療も復旧し、ふくしま自治研修センターは9月12日より、県職員のための研修施設として、その本来業務が再開されるとのことです。



東京都からの感謝状贈呈について

平成23年9月16日(金)東京都医師会からの要請による日本医師会JMAT(日本医師会災害医療チーム)へ3月26日から3月29日までと5月23日から5月28日まで本学教職員を宮城県気仙沼市へ派遣(医療支援)したことに対し、東京都民を代表して石原慎太郎東京都知事から感謝状が贈られました。

この贈呈式は、「『災害医療のこれからを考える』～東日本大震災での医療救護活動の現場から～」と題し東京都による「救急の日シンポジウム」の内容の一部として開催され、東日本大震災における医療救護活動に対し協力いただいた医療機関等に対して感謝状が贈られました。当院からは大槻稔治防火災害対策委員長が代表して出席いたしました。

同シンポジウムは、東日本大震災において実際に医療救

護活動を行った方、その医療救護活動を受け入れた方からの活動報告を基に、東京都での今後の災害医療について講演やパネルディスカッションが開催され、多くの都民が参加いたしました。



東日本大震災における本学の災害医療

平成23年3月11日14時46分、マグニチュード9.0という世界でも最大級の地震となった東日本大震災が発災した。津波、放射線被害などとともにこの地震が我が国に与えた人的、経済的被害は計り知れない。発災当日附属病院では直ちに災害対策本部が設置され各部門が徹夜で対応にあたった。外来には九段会館の崩落事故による受傷者27名のうち13名など、翌朝までに45台の救急車を含む100名以上の患者が殺到し、また、病院内には帰宅困難となった外来患者や患者家族約200名を始め、職員など700名以上が泊まり込むこととなり、急遽院内で焼いたデニッシュや毛布などを配布した。阪神淡路大震災の時とは異なり、被災地から遠く離れた当院においてさえ当初は混乱し、建物、ライフラインの安全確認、医薬品、医療材料などの供給確保、入院・手術の延期などによる調整など院内の対応で精一杯であった。発災から1週間が経った頃にはやっと院内は落ち着きを取り戻し、大学附属病院、災害拠点病院の使命として被災地支援の検討を開始したが、本学は厚生労働省の指定するDMAT(Disaster Medical Assistance Team: 災害派遣医療チーム)を持たず、その指揮下に入ることは不可能であったため独自のルートで福島県立医大への医療支援と東京都医師会によるJMAT(Japan Medical Association Team)への参加を決定した。

本学では被災地への支援体制を常時準備しているわけではなく、災害医療の原則である自己完結を目指し、急遽人員を募り、移動用のワゴン車をレンタルし、医療資機材、医薬品、食糧などを積み込み2日の準備期間で3月21日、まず福島へ第1陣が出発した。福島県立医大ではすでに日

赤、和歌山県立医大、長崎大学などのチームが活動しており、主に被曝者の除染活動を行っており、そのシミュレーション訓練に参加させていただいた。しかし原発は小康状態で落ち着いており、十分な人員も確保されていたため、我々のチームは福島県立医大救命センター長である田勢教授のご紹介により福島県医療救護調整本部の指揮下に入ることになった。発災から10日が経った当時でもまだメディカルコントロールは混乱しており、県・保健所の指揮のもとにその立て直しから始め、我々のチームは比較的健康状態が不良な被災者を集める予定とされたふくしま自治研修センターを拠点とし、日赤チームとともに県北地域を担当することとなった。その後4月30日までの40日間、拠点における診療所開設、周囲避難所の巡回診療などを行い、延べ1134名を診療し、またその間、東京JMATにも2チームを派遣、気仙沼でも医療支援を行った。

今回は災害があまりに大規模で被災地が広域であったため特殊な機材を必要としない亜急性期以降の医療需要が多かったこと、福島県立医大のご紹介により県医療調整本部の指揮下に入れたこと、大学全体のバックアップにより最低限の自己完結を行い、40日間にわたり継続して70名近くの医師、看護師、薬剤師、調整員を派遣できたことなどの要因から、ある程度の貢献が可能であった。しかし、さらに東京慈恵会医科大学として使命を果たしていくためには、平時より災害に備え、十分な装備を準備し訓練を行い、超急性期の支援も可能なDMATへの参画や日本赤十字社の様な独自の“慈恵DMAT”の創設も望まれる。



附属病院(本院) 救急部診療副部長
大槻 稔治

慈恵医大災害医療チーム紹介

慈恵医大災害医療チームが被災地へ出発する際に撮影した各チーム毎の集合写真をご紹介します。

ふくしま自治研修センター及び周辺避難所への災害医療チーム(全10チーム)

統括責任者:本院救急部 大槻稔治(派遣期間 3/21~4/1,4/12~4/22)

<p>第1チーム ●派遣期間 3月21日~3月25日</p> <p>本院:救急部 奥野 憲司 本院:中央検査部 松浦 知和 本院:血管外科 太田 裕貴 本院:看護部(手術部) 佐藤 睦</p>	<p>第6チーム ●派遣期間 4月10日~4月14日</p> <p>青戸:内視鏡部 吉田 幸永 本院:呼吸器外科 矢部 三男 本院:救急部 金 紀鍾 本院:精神神経科 須江 洋成 晴海トリオン:看護部 宮崎 愛 本院:看護部(17H) 地引 ちさと</p>
<p>第2チーム ●派遣期間 3月25日~3月29日</p> <p>本院:消化器・肝臓内科 菰池 信彦 青戸:中央検査部 杉本 健一 本院:消化管外科 満山 喜宣 本院:看護部(集中ケア) 小松 由佳 本院:看護部(14H) 室井 康代</p>	<p>第7チーム ●派遣期間 4月14日~4月18日</p> <p>本院:腎臓・高血圧内科 横尾 隆 本院:消化管外科 阿南 匡 本院:救急部 大瀧 佑平 本院:小児科 西野 多聞 晴海トリオン:看護部 野原 七重 本院:看護部(9E) 下枝友紀子</p>
<p>第3チーム ●派遣期間 3月29日~4月2日</p> <p>本院:腫瘍・血液内科 井上 大輔 本院:消化管外科 大熊 誠尚 本院:救急部 大瀧 佑平 本院:小児科 飯島 正紀 本院:看護部(救急部) 挾間しのぶ 柏:看護部(1C) 石川 真衣</p>	<p>第8チーム ●派遣期間 4月18日~4月22日</p> <p>本院:腎臓・高血圧内科 伊藤 秀之 本院:精神神経科 山寺 巨 本院:消化管外科 林 武徳 本院:薬剤部 川久保 孝 第三:看護部(2C) 橋本 裕一 本院:看護部(手術部) 三上 千博</p>
<p>第4チーム ●派遣期間 4月2日~4月6日</p> <p>本院:循環器内科 藤井 真也 柏:耳鼻咽喉科 大村 和弘 本院:血管外科 黒澤 弘二 本院:救急部 平沼 浩一 本院:精神神経科 宮田 久嗣 青戸:看護部(HCU) 藤本 紗世 青戸:看護部(4D) 小川 優子</p>	<p>第9チーム ●派遣期間 4月22日~4月26日</p> <p>本院:消化器・肝臓内科 梶原 幹生 本院:救急部 平沼 浩一 本院:看護部(17H) 栞窪 美春 柏:看護部(1C) 猪俣 絵美</p>
<p>第5チーム ●派遣期間 4月6日~4月10日</p> <p>本院:神経内科 河野 優 本院:外科 畑 太悟 本院:救急部 大谷 圭 本院:小児科 横井 貴之 第三:看護部(救急部) 古沢身佳子 本院:看護部(17H) 荒居 祥子</p>	<p>第10チーム ●派遣期間 4月26日~4月30日</p> <p>柏:循環器内科 松坂 憲 柏:救急部 潮 真也 晴海トリオン:看護部 福田 実穂 本院:看護部(手術部) 中村 智子</p>

宮城県気仙沼総合体育館への災害医療チーム(全2チーム)

<p>第1チーム ●派遣期間 3月26日~3月29日</p> <p>本院:救急部 奥野 憲司 大学医用エンジニアリング研究室 横山 昌幸 本院:看護部(救急部) 足立 晴美</p>	<p>第2チーム ●派遣期間 5月23日~5月28日</p> <p>柏:腎臓・高血圧内科 高根 絢希 本院:看護部(救急部) 印東真奈美 本院:中央検査部 歳川 伸一</p>
--	---

※所属につきましては、派遣時点の在籍部署となります。

「心房細動に対するカテーテルアブレーション治療」

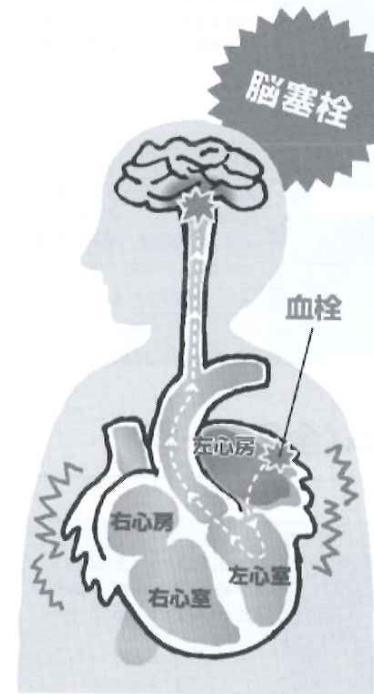
心房細動根治に向けた取り組みと今後の課題



東京慈恵会医科大学 循環器内科
准教授 山根 禎一

<心房細動とは>

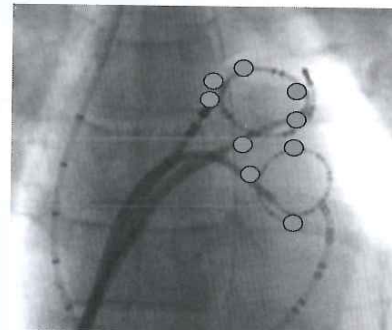
心臓が規則正しく動くことは多くの
人にとって当たり前のことです。このリ
ズムが崩れる状況を不整脈と呼び、



▲図1

その中には正常範囲のものから致命的
なものまで様々な種類が含まれま
す。不整脈の多くは年齢とともに増加
しますが、特に老化と密接な関係をも
つ不整脈が心房細動です。心房細
動は50歳程度から増加をはじめ、70
~80歳ではその有病率は5~10%に
も昇ります。これは直ちに命に関わる
タイプの病気ではありませんが、合併
症としての脳梗塞を生じることがあり、
過去の首相やスポーツの人気監督が
心房細動に起因する脳梗塞によっ
てリタイアまたは不幸な転帰をとった
ことは良く知られています(図1)。

これほど多くの人が患う病気であ
りながら、心房細動は長い間不治の
病とされ、生涯にわたって付き合っ
てゆくしか方法がありませんでした。そ
れは抗血栓薬を一生飲み続け、脳梗
塞のリスクと隣り合わせで生活してゆ
くことを意味します。やや大げさに言

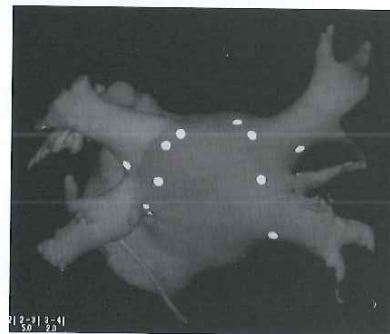


▲2本のリングカテーテルを使用した正確な
マッピング法

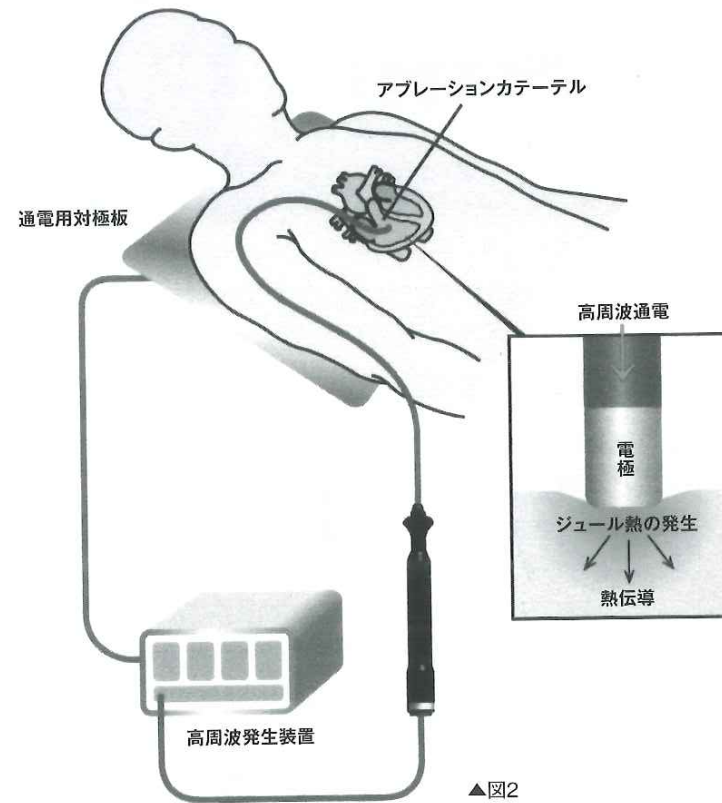
えば、心房細動を根治させることは、
人類の悲願でもあったわけです。

<心房細動の内科的根治術の開発>

心房細動は心房全体を巻き込んだ
複雑な病気です。当初開始された
外科的根治術は心房全体を切断お
よび再縫合するという大がかりな手
法でした(メイズ手術)。内科的なカ
テーテル手技で根治が可能となった
のは、心房の中でも特に原因として
の役割が大きい部位が限局して存
在していることが判明したことによ
ります。左心房に開口する肺静脈周
囲に特に悪い細胞が集中しているこ
とが20世紀の終わり(1998年)に判明
したのです。そして心房細動の比較
的早期の状態では原因が肺静脈内
に留まっていますが、病気の進行と
ともに心房全体へと拡散していくこと
もそれ以降わかってきました。



▲3次元マッピングによる最新の治療機器
マッピング法



▲図2

心房細動根治治療(カテーテルア
ブレーション)は仏国ボルドー大学で
世界に先駆けて開始されました。カ
テーテルアブレーションとは、単径部
血管から挿入したカテーテルを心臓
内に留置し、その先端から高周波電
流を流すことによって心筋を焼灼治
療する方法です(図2)。一回の通電
により直径約5mm程度の焼灼巣を
作ることができます。私はその開発
段階から治療チームに参画し、帰国
後には日本国内でいち早く慈恵医大
において治療を開始しました(2001
年)。治療の主眼は、カテーテルで心
筋を焼灼することで、標的となる領域
(肺静脈およびその周辺領域の悪い
細胞)を心房から電気的に隔離する
ことにあります。多くの施設では肺静
脈周囲を全周にわたって盲目的に線
状焼灼してゆく方法をとっていますが、
我々は肺静脈と心房との間の限

局した電氣的結合部位をピンポイント
で精密に同定し、最小限の心筋焼
灼によって最大限の治療効果を得る
方法を開発し、実践しています(図
2)。さらに、治療後の再発の原因と
なる不完全焼灼部位を完全焼灼す
る「アデノシン誘発法」を開発し、その
有効性を世界に発信しています。こ
のような方法によって早期段階の心
房細動に対して初回治療で90%以
上の成功率をあげることに成功し、
極めて高い治療効果として注目を浴
びています。

<最新の治療設備>

当科では2010年秋より、不整脈治
療専門心臓カテーテル治療室が稼
働しています。ここでは、カテーテル操
作にあたる術者のみならず、コン
ピュータ解析に当たる助手も放射線
被曝線量が最低レベルに維持できる

ための隔離ブースを設置した日本で
初めての専用室となっています。治
療にはコンピュータ技術を駆使した3
Dマッピング機器を用い、肺静脈前庭
部拡大隔離法、および心房心筋に対
する付加的修飾治療(CFAEアブ
レーション法、心房線状アブレーシ
ョン法など)を施行しています。

<慈恵医大の今後の取り組み>

現在、心房細動カテーテルアブ
レーション治療のもつ課題が2つあり
ます。一つは国内治療施設間の成績
のバラツキが大きいことです。経験数
が少ないために十分な成績を上げら
れていない施設が多いのが実態で
すが、圧倒的な数の患者数を考えれ
ば治療施設の限定ではなく、レベル
を上げながら治療施設を増加する
必要があります。そのためには先行した
施設が積み上げてきた経験をオーブ
ンにし、施設間レベルの相違を無くす
方向へと動く必要があります。当科で
は学外見学者を積極的に受け入れ、
国内の心房細動治療レベルの向上
に寄与しています。

もう一つの課題は、患者さんおよび
実地医家への啓蒙です。心房細動
の根治術はまだ歴史が浅いために
十分に知られているとは言えず、カ
テーテルアブレーションが選択肢に上
がらないままに経過し、至適治療
時期をのがして慢性化してゆくケース
が後をたちません。今後は病診連携
などを介して心房細動の早期根治
的治療を促進すると共に、将来的な
心房細動患者数・脳梗塞患者数の
減少を目指して慈恵医大を中心とし
たネットワーク作りを行ってゆきたい
と考えています。

「学士課程における看護基礎教育を考える」

看護学科 学科長・教授 櫻井美代子



平成4年に開設した看護学科は、今年20年目を迎えました。最初の10年間は、建学の精神と教育理念に基づくカリキュラム編成を中心とした大学教育の基礎作りの期間であり、その後の10年間は、教育方法の開発や看護専門領域の整備・拡張など、学士課程における看護基礎教育を構築する期間であったと思います。そしてこれからは、大学教育の原点に立ち戻り、看護学「学士」を授与する教育機関として教育の質保証が問われる期間であると考えています。

わが国の学士課程における看護学教育は、昭和27年にスタートしましたが、その後は遅々として増えませんでした。しかし平成4年の「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の施行と「看護婦等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針」の策定を契機に看護系大学は急激に増加し始め、平成23年度現在200校にのぼっています。この背景には、少子高齢社会の到来、高度医療や在宅医療の進展、介護・福祉分野の充実など、保健医療福祉をとり巻く社会情勢が変化していること、また安全かつ思いやりと倫理観のある医療に対する国民のニーズが高まっていることがあります。そのため学士課程には、このような社会の要請に応えられる確かな専門性と豊かな人間性を兼ね備えた資質の高い看護職の育成が期待されているのです。しかし、この20年間の看護系大学の増加現象は、看護学の専門性を高める一方で、専任教員の短期離職率を高めており、それが看護基礎教育の質の担保に影響を与えかねないと危惧しています。看護教員の「大学

を愛し、学生を愛する」姿勢が、一人ひとりの学生に専門職としてのプライドや意識を高め、それが看護基礎教育の質の向上につながると思うからです。

現在、大学教育の課程を修了している看護師は全体の24%であり、専門学校等が70%を占めています。そこで、学士課程で看護実践者を育てることの意義について考えてみたいと思います。学士課程教育の主要な特徴の一つは、教養教育であるといえます。教養教育では、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考力、人としての生き方に関する深い洞察力、倫理観に基づき現実を正しく理解する力を涵養することが求められています。人のケアに関わる看護職を育てる看護基礎教育では、教養教育がとりわけ重要であるといえます。そして大事なことは、教養教育の基礎の上に専門教育をどのように位置づけるのか、さらにはそれをどのように教えるのかといった教員の教育力であると思います。

看護学科では、これから20年後を視野に入れたカリキュラムを検討しています。特に本学の建学の精神である「人を診る」とこと、教育目標である「看護実践能力」を強化するために、共通科目として「看護総合演習」を1年次から4年次まで位置づけています。この科目は、各専門分野の枠を超えて看護教員全員が関わり、e-ポートフォリオやケースメソッド法を学習方法に取り入れながら、「物事を偏見無く多様な視点でとらえ、自ら考え、責任を持って判断し、行動できる」人材の育成に向けて取り組んでいます。

研究余話

常在菌による病原性黄色ブドウ球菌の定着阻害

— バイオフィーム破壊因子による黄色ブドウ球菌の排除 —



細菌学講座・教授 水之江 義充

黄色ブドウ球菌は、創感染などの皮膚感染症、心内膜炎、骨髄炎、食中毒等幅広い感染症を引き起こす。院内感染原因菌としても重要であり、多剤耐性黄色ブドウ球菌、特にMRSAの出現は、治療困難な症例を増大させ問題となっている。バイオフィームとは、留置カテーテルや人工関節などの医療材料上に菌が産生する多糖体やタンパクからなる菌体防御構造物である(図1)。バイオフィーム内の菌は、消毒薬や抗菌剤へ抵抗性となり難治性感染症を引き起こすことが知られている。それ故、バイオフィーム破壊法やその形成を抑制する方法を見つけることは、感染症、特に院内感染症や日和見感染症の予防・治療に重要であると考えられる。

黄色ブドウ球菌は、健常者の約30%の鼻腔に存在していることが知られている。免疫機能が低下した場合や大きな手術を受けたとき、自らの鼻腔に定着している黄色ブドウ球菌に

よって創傷感染や全身性の重篤な感染症が引き起こされることがある。残りの70%の人々は、黄色ブドウ球菌の定着から免れているわけであるが、その理由は明らかではなかった。

また、以前より常在菌が病原菌の侵入から宿主を守っているといわれているが、その証明はなされていなかった。

一方、表皮ブドウ球菌は、ほぼ100%のヒトの鼻腔に存在し、中心静脈カテーテル挿入等の特殊な場合でのみ感染症を起こすことがあるが、非病原性の常在菌と考えられている。

最近、我々は、常在菌である表皮ブドウ球菌がバイオフィームを破壊する因子を産生し、黄色ブドウ球菌を鼻腔から排除することを見いだした¹⁾。この破壊因子は、MRSAやバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌のバイオフィーム破壊作用も有しており(図2)、新たな概念を持った感染症の予防法や治療法の開発に繋がるのが期待される。

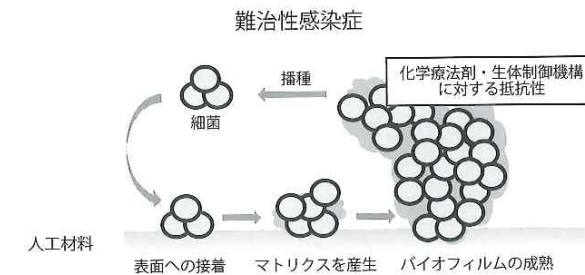


図1 黄色ブドウ球菌のバイオフィーム形成過程

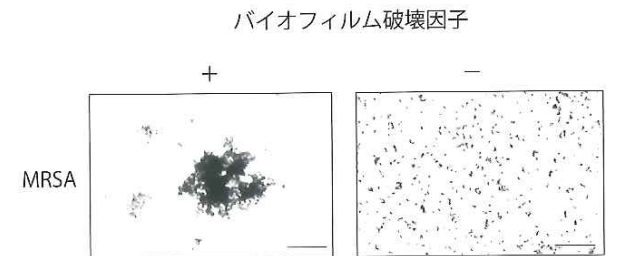


図2 破壊因子によるMRSAバイオフィームの破壊

<参考文献>

1. Iwase T, Uehara Y, Shinji H, Tajima A, Seo H, Takada K, Agata T, Mizunoe Y: *Staphylococcus epidermidis* Esp inhibits *Staphylococcus aureus* biofilm formation and nasal colonization. Nature 2010; 465, 346-9.

<謝辞>

本研究は、東京慈恵会医科大学研究推進費、東京慈恵会医科大学研究振興費、ならびに東京慈恵会医科大学細菌学講座の教室費によって実施された。加えて、研究支援課をはじめとする関係部署の方々のご支援ご協力に厚く感謝いたします。

「医学教育雑感」

今こそ求められるモラルの卒前教育



皮膚科学講座・教授
学生部長

中川 秀己

我々臨床に携わる医師は患者さんの訴えを聞くだけでなく、表情、服装、話し方、行動をつぶさに観察し、身体所見を取り、知識と経験から必要な検査を行い、正しい診断を下し、EBMに基づいた治療を行っている。基礎研究に携わる医師（研究者）も同様の過程を経て新しい事実、新しい解釈を求めて研究を行っている。これらの姿勢に加え、医師にはモラルと正確性、中立性が求められることは言うまでもない。しかしながら、入学したばかりで医師としてのモラルと正確性、中立性を理解し、実践できる医学生はほとんどいないであろうからモラルと正確性、中立性を卒前教育でしっかりと身に付くようにすることが医学教育に課せられた大切な義務と考えられる。

本学における医学教育はそのカリキュラム構成を見ても、私はハードで過密な気もするがTOP LEVELであることは間違いがない事実である。また、私は本学を入れて教育システムに若干の違いがある3つの大で医学教育に携わってきたが、本学ほど医学生と教官の顔がお互いに見える大学は無いと思う。こうした素晴らしい環境下でも守るべき規則を守る、やってはいけないことはやらなないという当たり前のモラルが守れない医学生が少しずつ増えてきているのが現実であり、医学カリキュラムの中にもモラルについての教育を充実させることになった。「放射能をつけちゃうぞ」「死の町」など国民が選んだ政治家が発言する時代だからモラル崩壊の時代になつてしまったのかもしれない。私の学生時代を振り返ってみるとモラルを守らないことがあつても、周りの人たちが学生さんだから大目に見てあげようという温かい気持ちにあふれていた。しかし、現在ではそのような雰囲気もなくなつてきているので医学生にとっては受難の時代と言えるかもしれない。私自身もモラル破りは何度もしてき

たが、私は本学を入れて教育システムに若干の違いがある3つの大で医学教育に携わってきたが、本学ほど医学生と教官の顔がお互いに見える大学は無いと思う。こうした素晴らしい環境下でも守るべき規則を守る、やってはいけないことはやらなないという当たり前のモラルが守れない医学生が少しずつ増えてきているのが現実であり、医学カリキュラムの中にもモラルについての教育を充実させることになった。「放射能をつけちゃうぞ」「死の町」など国民が選んだ政治家が発言する時代だからモラル崩壊の時代になつてしまったのかもしれない。私の学生時代を振り返ってみるとモラルを守らないことがあつても、周りの人たちが学生さんだから大目に見てあげようという温かい気持ちにあふれていた。しかし、現在ではそのような雰囲気もなくなつてきているので医学生にとっては受難の時代と言えるかもしれない。私自身もモラル破りは何度もしてき

女性医師キャリア支援室

副室長 川瀬 和美 (外科学講座講師)



我が国の医師国家試験合格者に占める女性の割合が例年30%を上回る中、本学においても、平成23年度レジデント採用者の約4割を女性が占めるなど、本学附属病院の女性医師の人数は、年々、大幅に増加しています。

これに伴い、出産・育児のため休職する女性医師の人数も増加傾向にあり、また、女性医師の勤務形態ならびに休職・復職に関するニーズが多様化する中で、本学附属病院が安定した運営を継続するためには、女性医師の希望を的確に把握した上で、個々のニーズにきめ細かく対応していく必要があります。

本学では平成20年1月に「育児・介護支援ワーキンググループ（委員長：外科学講座川瀬和美）」が設置され、委員の育児と仕事の両立に関する経験を参考として、短時間勤務制度への意見具申や女性医師と女子学生との交流会の開催など、女性医師の勤務環境の整備に寄与してまいりましたが、今後、益々の増加が予想される女性医師からの相談を積極的に受け付けるとともに、支援体制の整備を更に推進するため、女性医師キャリア支援室（室長：森山寛院長）が平成23年10月1日より新設されました。同室は大学2号館地下1階にあり、副室長には外科学講座・川瀬和美が就任し、教育センター・岡崎史子助教らと共に、出産・育児と仕事の両立を目指す女性医師にオーダーメイドのきめ細やかなアドバイスがされるものと期待されます。また、担当事務より、社会保障や本学の制度に

ついて詳細に説明をいたします。さらに、前身である育児・介護支援ワーキンググループの活動を継承し、出産育児のための勤務体系の構築と院内施設の整備・拡充や、女性医師（研修医・レジデントを含む）・女子学生への啓発活動にも取り組んでまいります。

結婚・妊娠・出産・育児などのライフイベントを乗り越えて、医師としての仕事を両立していくには、時にどちらかを諦めなければならない選択に迫られることがあります。そんな医師にとって、私たちは仕事と生活の両方を尊重する方法と一緒に考え、支援し、また、出産育児に限らず、少数派である女性医師の抱える悩みや問題点を検討し、さらにキャリアを積んで活躍できるようサポートする役割を果たしていきたいと考えております。

ご相談やご意見などございましたら、お気軽に女性医師キャリア支援室（大学2号館地下1階）内線：71-2116 / メールアドレス：jyoseiishiwg@jikei.ac.jpまでお寄せください。



本院CCU・血管撮影室

東京慈恵会医科大学 循環器内科 CCU病棟長 南井 孝介

平成12年5月、附属病院(本院)に中央棟が建設され、その7階に循環器内科一般床(27床)とCCU(4床)、心臓カテーテル検査室(1室)が設けられ、平成15年7月からは東京都CCUネットワークに加盟し、救急隊や近隣病院からの重症循環器疾患をより広く受け入れるようになりました。

平成22年5月～9月、検査機械の老朽化と近年増加しつつある高周波カテーテルアブレーション治療に対応するため、心臓カテーテル検査室の機器更新ならびに1室から2室への増室工事が行われました。

第1心臓カテーテル室(写真1)は狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、また弁膜症や先天性心疾患などの精査加療を行い、第2心臓カテーテル検査室(写真2、3)は高周波カテーテルアブレーション、永久ペースメーカーや植え込み型除細動器、両室ペーシング機能付き植え込み型除細動器(CRT-D)などの挿入等、不整脈に対する精査加療を主として行います。

過去のCCUへの入室経緯の調査から、かかりつけ(42%)、当院入院中25%(当科10%、他科15%)のみで67%を占め、これらに対応するため常時1床を確保せねばならず、CCUは3床入院で新規患者受け入れ中止となっております。CCU入院患者の63%は3日以内に、82%は4日以内に退室しており(平均5日)、早期治療、病床回転率の向上によりこの問題に対応して参りましたが、重症心不全や大動脈解離等の疾患ではCCU入院期間は長期化し、同疾患患者が複数同時期に入院した際にはやむなく新規患者受け入れ不可能となる期間

が少なくありませんでした。この問題を解決し、増加する心血管患者収容に対応するべく平成23年5月からCCUの増床工事(4床→6床)が行われ、8月1日よりリニューアルし再稼働いたしました。(グラフ1)

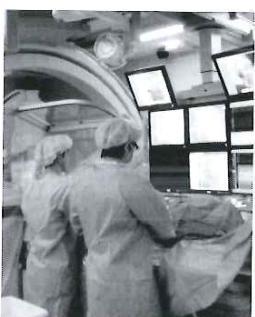
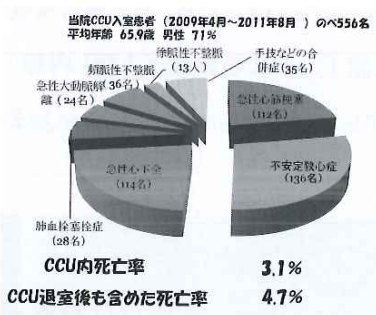
新CCUではすでにICUで採用されておりました生体情報モニタリングシステムを採用し、個室2床、オープン床4床のうち、個室1床(0713室)とオープン床1床(0715室)には人工呼吸器やシリンジポンプを装備したシーリングシステムを採用いたしました。

これまでオープン床間の敷居はカーテンのみでありましたが、新オープン床間は頭側半分を壁で隔てることによりプライバシーを保護するようにいたしました。また、0715室の隣の壁は簡単に収納できるように設計され、大動脈バルーンポンピングや経皮的心肺補助装置等の大きな装置が挿入された重症患者が入院した際には2床を1床分として使用できるようにし、より重症な患者に対しても対応できるようとなっております。

さらに、個室2床は室内環境を陰圧、陽圧に切り替える事ができるようになり、陰圧隔離が必要な重症感染症を併発した循環器疾患患者に対しても対応可能です。

新CCU稼働後は2床の増床の効果が表れ、CCU受け入れ中止時間は以前の約3分の1まで短縮でき、多くの急性期循環器疾患患者の収容が可能となりました。

今後、より一層関連病院、同窓の先生方からの重症患者診療要請にお応えできればと考えております。



▲グラフ1

▲写真1

▲写真2

▲写真3



▲新CCU病棟(0715・0716室)



▲新CCU病棟(0713室)



▲7H-CCU病棟スタッフ

The JIKEI NEWS FLASH

学内ニュース

新任教授紹介

- ①講座名・氏名 熱帯医学講座 嘉藤 洋陸
- ②略歴 平成9年東京大学農学部獣医学科卒業。平成13年大阪大学大学院医学研究科博士課程修了、医学博士。理化学研究所・研究員、スタンフォード大学・研究員、東京大学大学院薬学系研究科・講師を経て、平成17年より帯広畜産大学原虫病研究センター・教授。
- ③出身地 山梨県
- ④趣味・特技 チェンソー(3台保有)、スノーボード
- ⑤一言メッセージ グローバル化が進んだ今の世の中で、医学生の日も世界に向きつていきます。熱帯病であるマラリアなどの寄生虫研究を通じて、将来の若手医師の頭の中に常に“地球儀”が存在するよう、教育研究に精進する所存です。どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



- ①講座名・氏名 総合医科学研究センター 再生医学研究部 岡野 ジェイムス 洋尚
- ②略歴 昭和63年本学卒業、平成5年本学大学院博士課程修了。平成2年より米国ロッキンジャー大学神経科学・行動研究室に訪問大学院生として留学。平成5年に同大学分子神経腫瘍学研究室研究員となる。11年間の米国留学を終え、平成13年に慶應義塾大学医学部生理学教室専任講師に就任、平成17年同大准教授。米国カリフォルニア州クレアモント
- ③出身地 学生時代は競技スキー部。その他、スキューバダイビング、旅行、表千家茶道。
- ④趣味・特技 医学部学生の頃より夢見ていた難治性神経疾患の研究をロッキンジャー大で始め、慶應大では幹細胞システムを使った神経再生の仕事に携わりました。これまでの経験を生かして多くの臨床教室と幅広い共同研究を展開したいと思っています。
- ⑤一言メッセージ



平成23年度 医学科オープンキャンパス開催

平成23年8月19日(金)・20日(土)の午後1時30分から西新橋校中央講堂に於いて、9月24日(土)の午後1時30分から大学1号館3階講堂に於いて、今年度3回の医学科オープンキャンパスを開催しました。今回は、初日が豪雨となりましたが熱心な参加者が多く開始前には満席となり、翌日も満員の盛況で、2日間で約1200名の参加がありました。また、3日目も250名程度収容可能な会場に補助椅子を出しての開催となり、約300名の参加がありました。参加者には、大学ガイド・募集要項・リーフレットの他に説明資料と水色のトートバックや飲み物を配布しました。

クラブ活動、学生生活の様子、自分の経験に基づく受験勉強のアドバイスなどの話があり、参加者は大変興味深く聞いていました。終了後のアンケート結果では、①オープンキャンパスに参加して良かった(96%)、②教育方針が理解できた(97%)、③カリキュラムの特長が理解できた(96%)、④学生のトークが参考になった(94%)と好評で、コメント欄にも「学生の皆さんが受験生のために熱心に説明する姿を見て、本当にいい大学だと実感しました。」などの感想が書かれていました。説明会終了後に大学1号館の教育施設見学、個別相談会を開催しました。

栗原学長から「本学の理念と期待する学生」、松藤教学委員長から「本学のカリキュラムの特徴と実際」、阿部大学広報委員長から「卒業後の状況について(附属病院での最先端医療と海外留学)」の説明があり、入試事務担当者から平成24年度入学試験の概要を説明しました。その後、在校生のトーク(慈恵医大の学生生活)では、6名の学生が授業や



東日本大震災復興支援チャリティー東京慈恵会医科大学音楽部 第100回定期演奏会が盛大に挙行されました

音楽部100回定期演奏会記念事業委員会
委員長 穴澤 貞夫

去る平成23年5月29日(日)午後、東京赤坂のサン
トリーホールで、満席のお客様をお迎えし、東日本大
震災復興支援チャリティー東京慈恵会医科大学音
楽部第100回定期演奏会が開催されました。

今から90年前の大正10年、慈恵医大音楽部は数
名の音楽好きの学生によって我が国では10番目の
学生オーケストラとして創立されました。翌年秋に有
楽座で第1回の演奏会を開催し、以来医科単科大
学という音楽活動を行うには決して恵まれていると
はいえない環境のもとで、音楽に親しむ松明の火は
決して絶やされることなく受け継がれ、いくつかの存
亡の危機を乗り越え、90年の時を経た本年、記念す
べき第100回定期演奏会を迎えることになりました。

慈恵医大音楽部とOB会は、2年前より第100回定
期演奏会記念事業委員会を設置し、学生・OB一体
となって演奏会に向けて猛練習に励んでおりました
中で、あの東日本大震災の発生がありました。テレビ
・新聞などで報道される被災地の悲惨な状況、被災
者の悲しみ・苦しみにただただ涙するのみで、とても
音楽を楽しむ心境になれませんでした。しかし幾多
の危機を乗り越えてきた音楽部に根付く継続の精
神は決して軽いものではなく、たとえばあの終戦の
時ですら翌年の昭和21年にはただ1人の学生の奮
闘によって演奏会が挙行されております。当初本演
奏会は慈恵医大創立130周年祝賀—東京慈恵会
医科大学音楽部第100回定期演奏会—として計画
されておりましたが、学生たちの強い希望により東日
本大震災復興支援チャリティー東京慈恵会医科大
学音楽部第100回定期演奏会という名称に変え、慈
善演奏会として開催をめざすことになりました。

演奏会当日、栗原学長をはじめとしてほぼ満員
のお客様をお迎えし演奏会は始まりました。音楽部
生・OBは創設以来音楽部活動に立ち塞がった幾
多の困難に万感の想いと、大いなる感激を持って演
奏に臨みました。プログラムは創立以来始めてとな
った慈恵音楽部の学生・OBだけによる自前のフル
オーケストラ演奏で始まり、20年ぶりのリバイバルと



▲管弦楽



▲男声合唱

なった男声合唱と進行し、最後にAVS合唱団を主
体とした混声合唱とオーケストラ共演により、まず震
災でお亡くなりになられた方々の魂の鎮魂を願って
モーツァルトのアベレムコルプス、そして被災地の
希望に満ちた復興を願ってハレルヤコーラスを演奏
いたしました。そしてアンコール演奏の後、会場のお
客様全員と被災地のふるさと再生を願い「ふるさと」
を合唱し、90年の夢を乗せた演奏会は滞りなく終了
いたしました。

演奏会後、多くのお客様から、大変良い演奏会だ
った、慈恵の伝統を感じた、慈恵の底力を感じた、
などの多くの言葉をいただきました。演奏の巧拙に
よって音楽の価値は決まるものではありません。たと
え未熟な演奏であっても素人は素人なりに感動を与
える演奏が可能です。手前味噌ですが、このたびの
演奏会はことさら我々にそのような想いを抱かせた
演奏会でありました。



◀ 末尾を飾った「ふるさと」
は、東日本大震災からの
復興に願いを込めて会
場のすべての人々が、こ
ころをひとつにした大合
唱となった。

ひらめき☆ときめきサイエンス実施報告

平成18年度より日本学術振興会の委託事業とし
て実施している「ひらめき☆ときめきサイエンス ～よ
うこそ大学の研究室へ～KAKENHI」を、今年度は
7月29日(金)に内科学講座(腎臓・高血圧内科)横
尾 隆 講師によるプログラム「働き者の腎臓を知ろう
～血圧維持から再生医療まで～」にて開催した。

本委託事業は、小・中・高校生に対して、大学におけ
る最先端の科研費の研究成果を直に体験することに
よる、科学の面白さを感じてもらおうプログラムであるが、今
回は受講対象者を高校生に限定し、「腎臓の機能」
、「腎疾患と現行の治療法」、「新規治療法の開発研
究」について段階的に講義と実習を交えて開講した。

「腎臓の機能」では、細胞生理学講座 草刈洋一
郎 講師による聴診器を使用した血圧測定実習、「腎疾患と現行の治療法」では、附属病院臨床工学
部 遠藤友哉 技士による透析機器の見学実習、「新
規治療法の開発研究」では、北里大学獣医学部
より岩井聡美先生を特別講師としてお招きし、顕微鏡

下での血管縫合手技のデモンストレーションと実技
指導など、研究室・学外を越えたご支援を戴き、実臨
床を模倣したプログラムにするなど工夫を凝らした。

また、医学科学生3名(2年広川恵里沙さん、2年
中村紗枝さん、6年中原直哉さん)の協力も得られ、
講義・実習時における受講生へのサポート等を担当
して戴いた。

参加した受講生のほとんどは、将来、医師または医
療関係者になりたい者が多く、また、本学への進学を
希望する者も数人おり、受講する姿勢も積極的であ
った。最近の高校の生物の授業では、動物実験は殆
んど行っていないとの話が受講生よりあり、今回のプ
ログラムが非常に有意義であったと確信するとともに、
本学に対する期待を強く感じさせるものであった。

開催場所：大学1号館6階実習室、
腎臓再生研究室

参加人数：15名



▲血圧測定実習



▲透析機器の見学実習



▲腎臓再生医療研究室の見学



▲顕微鏡下擬似血管縫合体験

「夏休みわくわく体験学習 磁気力をみてみよう!」

平成23年8月1日、臨床医学研究所 並木禎尚 講
師による、最先端・次世代研究開発支援プログラム
(※1)における「国民との科学・技術対話」として体験
学習会を開催した。「科学離れのなか、自分の進路を
決める前に科学の面白さに触れ、少しでも興味を持
ってもらえれば」と考え、小学生を対象に企画した。

光・磁気に反応するナノ粒子を遠隔操作し、狙っ
た場所・タイミングで診断・治療を行う最先端医学を
楽しく理解できるようにワークショップ形式で行った。

基盤技術は、Accounts of Chemical Research
誌(※2)などに発表、(1)薬剤が入り出せる網目
状の隙間、(2)大きな薬剤搭載空間、をもつ「籠型カ
プセル」を開発し、従来難しかった大量の水溶性薬
剤の磁気送達を可能にした。

参加した小学生は電磁石や、暗闇で光るスライ
ム、磁力で動くスライムを製作。水溶性の物体を磁
力で操作したり、光らせたりする最先端医学の原理
を楽しみながら体験していた。保護者からは、「帰宅
後も夢中で遊んでくれそう。自由研究のきっかけに

なり、この時期の開催はうれしい。理科への興味が
広がった。」などの感想が寄せられた。

開発中の「放射能物質を磁気回収できるナノ粒
子」など、疾病の予防にも繋がる独創技術が少しで
も社会に役立つことを願ってやまない。ご支援下さ
いました関係各位に、この場を借りて深謝致します。

※1 次世代ナノ診断・治療を実現する「有機・無機ハイブリッド籠
型粒子」の四次元精密操作(代表者:並木禎尚)
<http://www.jsps.go.jp/j-jisedai/life.html>
※2 応用化学分野の国際学術誌(IP=21.8)
<http://pubs.acs.org/doi/abs/10.1021/ar200011r>

開催場所：大学1号館6階実習室
参加人数：14名



看護学科開設20年記念行事

平成23年10月29日(土)午後1時30分から国領校1階の講堂に於いて、吉武香代子名誉学科長を始め、同窓生や多くの教職員が参加する中、看護学科開設20年記念行事が盛大に執り行われた。子ども連れの卒業生達が参加しやすいように、医学科校舎のラウンジを託児コーナーとして用意したため、子どもの泣き声が聞こえる和やかな雰囲気の中で式典が始まった。栗原学長の挨拶では、明治18年に高木兼寛先生が日本で最初の看護教育を始めるまでの経緯と、平成4年に医学部看護学科を開設するに至った背景および開設後の経過について話され、本学における看護教育の理念を今後も守り続けて欲しいと述べられた。そして最後に3年前に設立した医学研究科看護学専攻修士課程の現状と今後の発展について触れ、本学の看護教育・研究の更なる発展を期待すると述べられた。

記念講演では、基礎看護学教授の芳賀佐和子先生が「看護学科20年の歩み～慈恵看護教育の流れの中で～」というテーマで講演された。先生は、長年の研究の中で集められた大変貴重な資料をパワーポイントに示しながら、我が国で最初の看護教育を受けた慈恵の卒業生達の偉業を分かりやすく話された。そして平成4年に開設した看護学科の教育にも、明治以来受け継がれている「患者中心のチーム医療」が継続されていることを強調された。最後に、優れた看護実践者の人材育成のために看護学科教員の研究活動と国際化に向けたさらなる発展を期待すると述べ、参加者が魅了された50分間であった。

続くシンポジウムでは、「開設20年を迎えて・今後への期待」というテーマで行われた。3期生の三村昭美さんが、同窓会看護学科支部を発足するまでの経緯とその後の活動状況について報

告し、最後に同窓会本部の手厚い支援に対して感謝の言葉を述べた。続く3期生の朝倉真奈美さんは、卒業後14年間の臨床経験を通して学んだ「自分にとっての顧客とは」という観点から話し、慈恵大学の組織人としての意気込みを強く感じた。在学生の松本あさひさんは、4年間の振り返りと本学に入学したことで「なりたいた自分を見つけることができた」「人を大切にすることが身についた」と臨地実習での体験を交えながら述べた。高橋則子看護部長は、本学卒業生と看護学科教員に関する師長へのアンケート結果を示しながら、卒業生への期待と看護学科への期待を述べられた。その後、参加者から多くの発言があり、大変有意義な時間であった。懇親会場への移動の途中で、参加者全員が学生食堂ベラの前に集まり記念撮影を行った。続く懇親会は、20年間の記念写真が並ぶ中、高橋紀久雄同窓会長のご祝辞と吉武香代子初代学科長による乾杯のご挨拶で会が始まった。ショートスピーチやピアノ演奏を取り入れながら懐かしい人たちの思い出話は尽きず、懇親会は終始和やかな雰囲気に包まれていた。最後に櫻井美代子看護学科長による挨拶があり、看護学科開設20年記念式典が閉会となった。



平成23年度 看護学科オープンキャンパス開催

看護学科では7月16日(土)と翌17日(日)の両日、国領キャンパスの看護学科校舎2階大教室に於いてオープンキャンパスを開催しました。今年は参加者が非常に多く、特に2日目の17日(日)は、参加者が会場に入りきれないほどの盛況で、両日の参加者数は合計で590名でした。内容は二部構成となっており、一部では栗原学長、櫻井看護学科長が本学の求める人材像や看護教育の特徴につ

いて紹介した後に、カリキュラムの特長と概要、平成24年度入学試験手続等の説明、在校生から学生生活の紹介や受験勉強のアドバイス等が行なわれました。休憩を挟んで二部では、模擬授業、看護体験実習、海外研修報告会、国領キャンパス見学ツアー、個別相談会等が行なわれました。今年も在校生がボランティアとして多数参加し、和やかな雰囲気の中に終了しました。

東京慈恵会医科大学130年史の発刊

この度、大学創立130年を記念して、「東京慈恵会医科大学130年史」が刊行された。

上巻は成医会講習所開設に始まる大学130年の歴史を俯瞰する内容となっており、各時代を象徴するトピックを中心に9章で構成されている。第1章「建学」-イギリス医学に範を取り日本医学界の改革をめざす-、第2章「慈恵医院の設立」-皇后陛下の御心により「慈恵」の名を冠した病院が誕生-、第3章「東京慈恵会の誕生」-病院の規模を拡張するために大局的な視点から磐石の組織を作る-、第4章「震災からの復興」-金杉学長の不屈の指導のもと私学としての大きな発展を遂げる-、第5章「終戦を乗り越えて」-苦しい混乱期を経て学校法人として再出発-、第6章「樋口時代」-良き慈恵人を育てる理想的な環境作りを目指して-、第7章「創立100年」-壮大な構想をかかげ全学を挙げて取り組んだ百年記念事業-、第8章「看護学科開学」-優れた看護が実践できる看護師育成のために医学部のなかに看護学科を設置-、第9章「130年を迎えて」-個性輝く大学を目指して改革を進める慈恵大学-。各章のテーマにふさわしい、今まであまり公

開されていない写真がふんだんに使用されており、各種証明書やメダル、図面など、この記念誌のために新たに撮影された写真も多数掲載されている。このほか、巻頭企画として平成22年10月2日に開催された「大学創立130年・同窓会設立85周年合同記念式典・記念講演・祝賀会」の様子が、楽しい雰囲気になったスナップの数々で構成されている。巻末には「大学年表」、「歴代校長・学長紹介」とともに、学祖の誕生から晩年までを物語風に綴った「高木兼寛小伝」が掲載されている。

下巻の内容は百年史が刊行された1980年以降の30年間の大学の歩みを中心に構成されており、冒頭の「慈恵大学30年の歩み」は①名取学長時代、②阿部学長時代、③岡村学長時代、④栗原学長時代、各時代の主要な事柄がピックアップされている。また、各部門・部署からそれぞれの歴史が最近の30年間の活動を中心に報告されている。

上巻・下巻の2冊組み、A4版762頁の大著であり、東京慈恵会医科大学創立130年記念誌編集委員会(委員長:中山和彦教授)の3年間の活動が結実した労作である。



*「130年史」は創立130年記念募金にご賛同いただいた皆様にお渡ししております。

節電結果報告

平成23年3月11日東日本大震災の影響で、福島第一原子力発電所運転停止したことより、東京電力管内は、大幅な電力の供給が出来なくなりました。

政府は電力使用制限令を発動し、7月1日から9月9日までの平日午前9時から午後8時までの間、東京電力管内に対する電気の使用制限措置が発令されました。

本学における節電対策として、西新橋地区では、4月より「節電・停電に関する対策会議(責任者:森山寛附属病院院長)」を立ち上げ、節電実践部隊の下部組織として「電力対策プロジェクトチーム(リーダー:丸毛啓史附属病院副院長)」を発足しました。また、青戸病院、第三病院、国領校、柏病院の各機関においても節電対策委員会を発足し、節電対策を重ねてまいりました。

その結果、西新橋地区および各機関における7月、8月の使用電力削減率について、ご報告いたします。

- 1.西新橋キャンパス(法人事務局、附属病院、看護専門学校含む)の7月使用電力量は対前年同月比マイナス11%、8月はマイナス17%。
 - 2.青戸病院の7月使用電力量は対前年同月比マイナス16%、8月はマイナス18%。
 - 3.第三病院(国領校、看護学科、看護専門学校含む)の7月使用電力量は対前年同月比マイナス16%、8月はマイナス19%。
 - 4.柏病院(医学研究棟、看護専門学校含む)の7月使用電力量は対前年同月比マイナス10%、8月はマイナス12%。
- 4機関合計では、7月が対前年同月比マイナス12%、8月がマイナス16%と各機関目標削減率を大幅に上回る成果となりました。これは教職員全員の意識統一と努力が実を結んだ結果だと言えます。

機関	月	年 (削減率%)	外来棟	E棟	中央棟	病院(計)	大学1号館 (高木+コージェネ)	大学2号館	高木会館4棟	高木2号館	病院以外(計)	全体 (東電様計画)
												削減率
西新橋 キャンパス 法人事務局 附属病院 看護専門学校	7月	平成22年	701,810	454,970	1,515,840	2,672,620	636,020	313,260	415,560	119,550	1,484,390	3,736,560
		平成23年	586,490	436,530	1,334,960	2,357,980	551,560	247,060	316,310	96,590	1,211,520	3,334,800
		対前年同月比	-16%	-4%	-12%	-12%	-13%	-21%	-24%	-19%	-18%	-11%
	8月	平成22年	731,300	477,550	1,666,150	2,875,000	641,110	316,140	463,790	118,780	1,539,820	4,225,200
		平成23年	616,830	437,840	1,417,120	2,471,790	573,030	256,460	344,000	91,950	1,265,440	3,518,640
		対前年同月比	-16%	-8%	-15%	-14%	-11%	-19%	-26%	-23%	-18%	-17%
4月~8月 (合計)	平成22年	2,903,540	2,062,910	6,801,530	11,767,980	2,787,940	1,339,220	1,628,500	501,220	6,256,880	17,071,440	
	平成23年	2,469,730	1,884,440	5,866,240	10,220,410	2,327,440	1,044,350	1,219,850	377,880	4,969,520	14,622,960	
	対前年同月比	-15%	-9%	-14%	-13%	-17%	-22%	-25%	-25%	-21%	-14%	

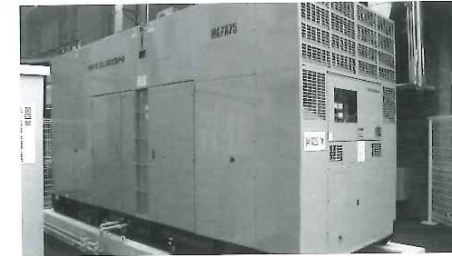
(電力使用量:単位kWh)

※大学1号館は、コージェネ発電機(ガス発電機)を合算した値とした。

機関	月	平成22年度電気使用量(kWh)	平成23年度電気使用量(kWh)	対前年同月比
青戸病院	7月	556,226	465,478	-16%
	8月	585,468	477,463	-18%
	合計	1,141,694	942,941	-17%
第三病院 国領校 看護学科 看護専門学校	7月	1,148,760	959,880	-16%
	8月	1,171,980	948,420	-19%
	合計	2,320,740	1,908,300	-18%
柏病院 医学研究棟 看護専門学校	7月	1,179,300	1,056,540	-10%
	8月	1,320,300	1,156,320	-12%
	合計	2,499,600	2,212,860	-11%

また、今後の計画停電等の対応策としては、西新橋地区に非常用発電機2台、青戸病院1台、柏病院1台を設置いたしました。西新橋地区においては、A重油で640kWの発電力を持ち、最大14時間30分稼働する発電機を、大学1号館駐車場横に設置し、計画停電等には外来棟の放射線機器を稼働させます。もう一台は旧図書館横に設置し、高木1号館の電力を補う予定です。

今年の夏に関して東京電力は、管内の全原子力発電機17基が定期点検等で止まる可能性があり、停止中の原子力発電機が再稼働できなければ、昨年の夏よりも200kW程度供給力が減少する見通しであるとのこと。火力発電機の燃料調達



難しくなった場合には、ピーク時だけでなく、電力使用量の面でも制御する必要が出てくるなど、厳しい状況になる可能性もあるとのこと。

本学においても、今年の夏も続くであろう節電対策に、更なるご協力の程よろしくお願い致します。

医療安全推進週間の実施

今年度の医療安全推進週間が平成23年11月1日(火)から14日(月)にかけて行われた。医療安全推進週間とは、安全で安心な医療を実践し、さらに質の高い医療を提供できるよう、自らの安全状況を振り返る機会とし教職員が一丸となって、医療の安全推進活動を前向きに進めることを目的に実施している。

全機関共通の取り組みとして以下の2つ、そして西新橋、青戸病院、第三病院、柏病院それぞれの取り組みが実施された。

(1)「みどりのリボン」の着用

身近に起こった医療問題を教訓として、医療安全の推進と質の高い医療を提供する気持ちを示すため「みどりのリボン」を教職員・学生など学内勤務者全員が着用した。



▲4病院合同リスクマネジメントシンポジウム

(2)4病院合同セーフティマネジメントシンポジウムの開催

11月1日(火)大学1号館講堂にて「医療安全活動における患者とのパートナーシップ」と題し、外部講師としてお招きした山内桂子先生(東京海上日動メディカルサービス(株)主席研究員)の特別講演が行われ、全機関へテレビ会議システムにて中継され計781名が聴講した。

また、各機関独自の取り組みとして、院内医療安全ラウンド、患者さんへのアンケート調査、医療安全に関する取り組みを紹介するポスター展示などを行い、教職員の意識を高めることだけでなく、患者さんやご家族に対しても我々の医療安全推進活動を理解していただき、さらに積極的に参加いただけるよう実施された。

最後に、この活動は平成16年度から実施され今年度で8年目となる。その契機は過去に起きた青戸病院での医療問題である。私たち教職員がそれを教訓として受け止め、常に原点に戻って安全な医療を提供することを認識する機会とした。



▲附属病院 医療安全に関する取り組みのポスター展示

ロンドン日本クラブ帰国者レポート

神経内科 助教 坂本 剛



◀日本クラブ勤務中の坂本医師(左)、内山医師(右)

私は平成20年5月より、平成23年4月まで、英国ロンドンにあるNippon Club Medical Clinicで勤務しました。このClinicはロンドン駐在員を派遣している日系企業により構成されているLondon Nippon Clubが経営しており、慈恵から30年以上にわたり医師が派遣されています。現在は内科医2人、小児科医1人で、二つの診療所(北診療所 St. Johns wood, St. John and St Elizabeth病院内と南診療所Wimbledon, Parkside病院内)で診療しています。

ここでの診療は、勿論英国の医療制度に準じて行われます。英国では、まず一般医と言われるGeneral Practitioner(GP)があらゆる症状の診療をします。そして専門的な精査・加療が必要な場合は、そこから専門医・consultantに紹介受診となります。つまり、初診から患者側が診療科を選択し、自由に受診できる日本とは大きく異なる制度です。我々医師3人は実際には内科医・小児科医ですが、こちらではGPとして登録されています。私は内科医・神経内科医ですが、この領域の患者さんは全体の2割前後であり、専門外の患者さんも沢山診察しなくてはならないため、赴任当初はかなり苦勞しました。

英国で医療をしていると、英国の医療・医師の考え方が、日本と異なる点が多いことに気がきました。日本の医療に慣れている日本人が現地の医療機関を受診すると、この違いのためか、違和感・不安を感じるようです。このため、我々のClinicでは、出来るだけ日本的な医療を、日本語で行うことを心がけていました。



▲北診療所St. Johns wood, St. John and St Elizabeth病院

私が、英国と日本の医療の考え方の違いを強く感じたのは、平成21年新型インフルエンザ流行時でした。英国では、インフルエンザが疑われた場合、医療機関への受診はさせず、専用回線もしくはインターネットでの問診のみで診断するシステムを構築しました。これでインフルエンザと診断されると、患者は自宅安静・待機、患者以外の者が薬局に抗インフルエンザ薬を取りにいきます。このシステムの目的は、病院受診などのために患者を外出させないことにより、感染を蔓延させないことでした。これは歴史的に疫病で多くの被害をうけた英国では、当然の考えのようでした。しかし多くの日本人は、インフルエンザが疑われた時、病院に行き、医師の診察・検査を受けないと、不安を感じるでしょう。実際、当時在英の日本人は不安を感じていました。しかし、我々のClinicも英国の規則に従い、インフルエンザ疑い患者さんの診察をおこなうことができました。

このため、我々は在英の方に、機関紙やホームページを使い、インフルエンザの症状の紹介・情報提供をしました。また発熱がありインフルエンザを疑われる患者さんは、電話での相談を行いました。診療ではないので、診療費は取れずボランティアでしたが...

現在は、内科医の原先生・内山先生、小児科医の安藤先生が勤務しています。ロンドンおよび近郊にて、もし健康トラブルにあわれたら、是非ご活用下さい。



▲南診療所Wimbledon, Parkside病院

良好な職場環境づくりのために ハラスメントの防止と対策について

近年職場でのハラスメント(人に不利益や不快感を与える言動、嫌がらせ)によるトラブルが社会的に増加傾向にあります。皆さんがそのようなトラブルに巻き込まれないために、ここではその代表例として「セクハラ」と「パワハラ」の防止と対策についてご案内します。

1.セクハラ(セクシュアルハラスメント)とは

以下に示すような性的な言動に対し拒否・抵抗・抗議したことにより、解雇・不当な配置転換・降格・減給などの不利益を受けること、あるいは、性的な言動によって職場環境が悪化し、意欲の低下など就業上見過ごせない程度の支障が生じることです。軽い冗談のつもりでも、相手が嫌がる行為はセクハラとなります。

【典型例】

- ・スリーサイズを聞くなど個人の身体的特徴を話題にする
- ・性的な冗談を言う、からかう、噂を立てる、質問する
- ・食事やデートにしつこく誘う
- ・身体を執拗に眺め回す、不必要に接触する
- ・性的な内容の電話をかける、手紙や電子メールを送る
- ・性的な関係を強要する
- ・女性であるという理由だけでお茶汲み、掃除、私用等を強要する
- ・酒席等で上司の側に席を指定する、お酌やチークダンスを強要する、カラオケでデュエットを強要する

2.パワハラ(パワーハラスメント)とは

職場での地位や権限を濫用し、以下に示すような業務上の指導・育成の範疇を明らかに超える言動、あるいは、私情や好みに基づく差別的な扱いなどにより、弱い立場にいる相手の職場環境を悪化させることです。

その必要性、手段の妥当性、相手の被る精神的苦痛の程度の観点から、明らかに社会常識を逸した行為は、人格権の侵害としてパワハラとなります。

【典型例】

- ・仕事を与えない
- ・無視する
- ・草むしりなど業務上意味もない作業をさせる
- ・過大なノルマを押し付ける
- ・些細なミスに対し必要以上に強く叱責する
- ・いじめや嫌がらせをする
- ・暴力を振るう

3.ハラスメントの対象者

教職員はもちろん、学生、派遣労働者、患者、取引先など、大学に関わる全ての人への被害が、ハラスメントの対象となります。

4.ハラスメントが起こる場所

職場内だけでなく、出張先、取引先、業務に関連して使用する飲食店なども職場におけるハラスメントとして扱います。

5.相談機関

もしハラスメントの被害にあったら、まず嫌なことをはっきりと相手に伝えることが大切です。しかしながらそれができない場合でも決して一人で悩まないでください。本学には「学内」と「学外」に次の相談機関がありますので、どうぞお気軽にご相談ください。

学内 電話や面談による相談	学外(外部相談専用窓口)	
	電話相談	カウンセリング、電話相談
法人事務局 総務部 人事課 内線(71)2113~2114	セクハラ・ ホットライン フリーダイヤル 0120-090870	(EAP) 教職員支援プログラム 詳細はイントラ参照 イントラネット ↓ 法人事務局 ↓ 人事部門 ↓ メンタルヘルスのご案内
青戸病院 管理課 人事係 内線(72)2546~2547	火・水・木・金 17:00~21:00 土 9:00~12:00 ※祝祭日・年末年始除く	
第三病院 管理課 人事係 内線(73)3701~3702		
柏病院 管理課 人事係 内線(74)2188~2190		

- ・学内での相談は、女性・男性の人事担当者が対応しています
- ・相談内容の秘密は厳守されます。また、プライバシーは保護されます
- ・被害を相談したことや調査に協力したことによって、不利益を被ることはありません

6.慈恵大学はハラスメントを許しません!

セクハラは本学の就業規則で禁止されている行為です。またハラスメントの加害者には就業規則に定められた懲戒を執行します。

これらは本来、相手に対する思いやりがあれば起こらないものばかりです。また日頃から職場でのコミュニケーションが充分とれていれば、万が一発生しても初期段階での解決が可能です。働きやすい職場環境をつくるためには、教職員全員がハラスメント防止に向けた意識を共有することが必要です。



生涯学習センターをはじめとする各機関では、生涯学習のためにセミナーやフォーラムなどさまざまな取り組みを行っています。時間や会場等の詳細につきましては、各機関へお問い合わせください。

慈恵医大生涯学習センター

●慈恵医大生涯学習セミナー

月例セミナーと夏期セミナーを開催し、受講者には「日本医師会生涯教育講座参加証」を交付致します。

■月例セミナー／開催日時:第2土曜日(休日を除く)
16:00~18:00(但し、1月、8月、10月、12月を除く)

場 所: 附属病院(本院)中央棟3階会議室

回数	月日(曜)	テーマ	演 者
第198回	平成24年 3月10日(土)	ここまで治る、子どもの心臓病	心臓外科 森田 紀代造 教授

注)一部変更もあり得る。

◎お問い合わせ先:慈恵医大生涯学習センター
電話:03-3433-1111(大代表)内線2634

東京慈恵会医科大学

【国領キャンパス】

●看護学科主催公開講座(医療者対象)

場 所: 大学1号館講堂(3階)

回数	月日	時間	演 題	演 者
第3回	平成24年 3月16日(金)	18:30~20:30	Jean Watson's Theory ~Human Caring, Love and Ethics of Face~	コソ野大学看護学部看護学 ヒューマンケア学研究所所長 Jean Watson

◎お問い合わせ先:医学部看護学科
電話:03-3480-1151(代表)内線2611

附属病院(本院)

●新みんなの健康教室

回数	月日(曜)	時間	テーマ	演 者
第6回	平成24年 2月9日(木)	13:30~14:45	病気の早期発見のために 一定期的な健診受診のすすめ	総合健診・予防医学センター センター長 鎌谷 幹男

◎お問い合わせ先:附属病院(本院) 管理課
電話:03-3433-1111(大代表)内線5131

青戸病院

●青戸病院公開セミナー

平成24年2月25日(土) 14:00~
テーマ:「整形外科疾患について」(予定)
演 者:整形外科 井上 雄 他

◎お問い合わせ先:青戸病院 管理課
電話:03-3603-2111(大代表)内線2671

第三病院

●市民公開講座

第三病院公開健康セミナー

回数	月日	時間	テーマ	演 者
第56回	平成24年 1月28日(土)	14:00~ 15:30	糖尿病による足病変	形成外科 二ノ宮 邦稔

※第57回以降は日時のみ決定。2月18日(土)・3月17日(土)、
時間はいずれも14:00~15:30。テーマ等の詳細は、各開催月
の2ヶ月前に決定します。

◎お問い合わせ先:第三病院 管理課
電話:03-3480-1151(大代表)内線3711

柏病院

●平成23年度地域がん診療連携拠点病院事業 市民公開講座

平成24年3月3日(土) 14:00~16:30
テーマ:未定
第1部:大腸がんについての講演
第2部:ジャズ演奏

◎お問い合わせ先:柏病院 業務課
電話:04-7164-1111(大代表)内線2158

慈恵医師会

●慈恵医師会産業医研修会

例年、7月に開催をしています。
(主催)慈恵医師会
(共催)東京都医師会

●お問い合わせ先:慈恵医師会●

電話:03-3433-1111
(大代表)内線2636

JIKEI BULLETIN BOARD

大学公報のまとめ

行事

BULLETIN BOARD

1.平成23年度第1回学位記授与式が5月16日(月)午後2時30分より、学長応接室において挙行された。
授与された者 大学院修了者 5名
論文提出者 5名
計 10名

1.第49回実験動物慰霊祭が6月11日(土)午後3時より、大学1号館講堂(3階)にて執り行われました。

1.平成23年度第2回学位記授与式が7月19日(火)午後2時30分より、学長応接室において挙行された。
授与された者 大学院修了者 3名
論文提出者 4名
計 7名

1.平成24年度大学院医学研究科(看護学専攻修士課程)入学試験が次の通り行われた。
平成23年9月25日(日) 合格者 11名

1.平成24年度大学院医学研究科(博士課程)入学試験が次の通り行われた。
平成23年10月1日(土) 第一次募集
合格者 14名

1.10月6日(木)、10月7日(金)の両日、第128回成医会が開催された。

1.10月8日(土)、学長をはじめ教授会代表、学生会代表により学祖 高木兼寛先生の墓参が行われた。

1.平成23年度第3回学位記授与式が10月17日(月)午後2時30分より、学長応接室において挙行された。
授与された者 論文提出者 8名

1.10月28日(金)午後1時より、芝増上寺にて第107回解剖諸霊位供養法会が行われた。

1.10月29日(土)午後1時より、看護学科開設20年記念式典が挙行された。

1.10月31日(月)午前10時より、青戸新病院(仮称 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター)竣工式が挙行された。

平成23年度 科学研究費補助金配分内定一覧

1. 科学研究費補助金受給一覧

(単位:千円)

種 目	22年度 (実績)			23年度 (内定)		
	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)
特定領域研究	0	0	0	0	0	0
新学術領域研究	2	10,800	3,240	2	20,300	6,090
基盤研究 (S)	0	0	0	0	0	0
基盤研究 (A)	0	0	0	0	0	0
基盤研究 (B)	11	34,495	10,350	8	24,100	7,230
基盤研究 (C)	66	74,659	22,410	68	74,500	22,350
若手研究 (A)	0	0	0	0	0	0
若手研究 (B)	41	42,960	12,900	52	65,500	19,650
研究活動スタート支援	5	5,160	1,548	2	2,220	666
挑戦的萌芽研究	5	4,600	0	10	13,200	3,960
特別研究員奨励費	1	600	0	3	2,400	0
合計	131	173,274	50,448	145	202,220	59,946

2. 科学研究費補助金配分状況一覧 (新規採択+継続分)

(単位:千円)

種 目	23年度 (継続)			23年度 (新規)		
	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)
特定領域研究	0	0	0	0	0	0
新学術領域研究	0	0	0	2	20,300	6,090
基盤研究 (S)	0	0	0	0	0	0
基盤研究 (A)	0	0	0	0	0	0
基盤研究 (B)	7	19,200	5,760	1	4,900	1,470
基盤研究 (C)	46	40,300	12,090	22	34,200	10,260
若手研究 (A)	0	0	0	0	0	0
若手研究 (B)	27	25,200	7,560	25	40,300	12,090
研究活動スタート支援	2	2,220	666	0	0	0
挑戦的萌芽研究	4	4,800	1,440	6	8,400	2,520
特別研究員奨励費	1	800	0	2	1,600	0
合計	87	92,520	27,516	58	109,700	32,430

平成23年4月1日

1. 藤村 龍子氏に、看護学科客員教授の称号を贈る

平成23年6月1日

1. 嘉糠 洋陸氏に、熱帯医学講座担当教授を命ずる

1. 根津 武彦教授に、客員教授を命ずる

1. 池本 庸准教授に、客員教授を命ずる

1. 大西 明弘准教授に、教授を命ずる

1. 加藤 陽子講師に、准教授を命ずる

1. 中田 典生講師に、准教授を命ずる

1. 林 勝彦講師に、准教授を命ずる

1. 高橋 紀久雄氏に、学校法人慈恵大学理事を命ずる

1. 香川 草平氏に、学校法人慈恵大学理事を命ずる

1. 鎌田 芳夫氏に、学校法人慈恵大学評議員を命ずる

1. 穎川 一信氏に、学校法人慈恵大学評議員を命ずる

1. 小田 治男氏に、学校法人慈恵大学評議員を命ずる

1. 大政 良二氏に、学校法人慈恵大学評議員を命ずる

1. 關根 広氏に、准教授を命ずる

1. 關根 広氏に、附属第三病院放射線部診療部長を命ずる

平成23年7月1日

1. 須藤 正道准教授に、教授を命ずる (特任期間平成23年7月1日～平成25年3月31日迄)

1. 柵山 年和講師に、准教授を命ずる

1. 太田 有史講師に、准教授を命ずる

1. 曾雌 茂講師に、准教授を命ずる

1. 舟崎 裕記講師に、准教授を命ずる

1. 伊藤 洋氏に、附属青戸病院精神神経科診療部長を命ずる

1. 長沼 宏邦氏に、附属柏病院心臓外科診療部長を命ずる

1. 福地 修氏に、附属柏病院皮膚科診療部長代行を命ずる

平成23年8月1日

1. 桑野 和善氏に、附属第三病院呼吸器内科診療部長(兼任)を命ずる

平成23年9月1日

1. 総合医科学研究センターに再生医学研究部を新設する

1. 岡野ジェイムス洋尚氏に、教授を命ずる

平成23年10月1日

- 1.宮田 久嗣准教授に、教授を命ずる
- 1.横山 啓太郎講師に、准教授を命ずる
- 1.斎藤 充講師に、准教授を命ずる
- 1.永野 みどり氏に、看護学科教授を命ずる
- 1.草地 潤子講師(非常勤)に、看護学科准教授を命ずる
- 1.赤崎 安晴氏に、附属青戸病院脳神経外科診療部長を命ずる
- 1.阿部 俊昭氏に、総合母子健康医療センター小児脳神経外科部門診療部長(兼任)を命ずる

学事
BULLETIN BOARD
jikei

■大学院修了者

23.5.11 小野 郁
23.5.25 古川 賢英
23.6.8 林 大地
23.6.22 小高 文聰
23.10.12 高原 映崇
23.10.26 寺尾 吉生

■学位論文通過者

23.6.8 相原 弘之 松本 直樹
23.6.22 中村 賢 橋本 朋子
23.7.13 林 淳也 森田 道明
23.7.27 橋本 透 加畑 好章
23.9.14 伊藤 正紀 石塚 康夫
23.9.28 相澤 摩周 肥田野 求実
23.10.12 川嶋 公成

中崎 浩道

慶弔
BULLETIN BOARD
jikei

訃報

- 1.原田 萬三 名誉教授(元進学課程教授)は、9月18日逝去されました。

行事

平成23年6月21日(火) 東京慈恵会理事会、評議員会、通常総会が開催された。

東日本大震災被災者救援金の報告と御礼

学校法人 慈恵大学
東京慈恵会医科大学
理事長・学長 栗原 敏

この度の東日本大震災に際し、患者さん、同窓、学生、教職員の皆様に被災者救援のご寄付をお願いしましたところ、絶大なご賛同をいただき下記の通り救援金が集まりました。

7月12日、10月13日に日本赤十字社義援金窓口の銀行口座に振込みましたのでご報告致します。皆様のご厚情に心より感謝いたします。

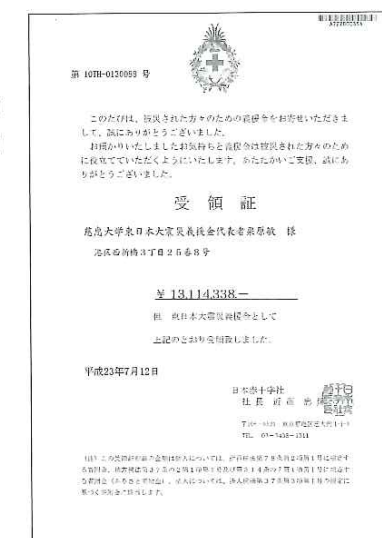
慈恵大学では、これからも被災地の医療機関を中心に支援を行ってまいります。

引き続き、ご協力をお願い申し上げます。

救援金総額 13,332,607円

【日本赤十字社への振込内訳】

- ・第1回振込額(7月12日) 13,114,338円
- ・第2回振込額(10月13日) 218,269円



行動憲章 / 行動規範

BULLETIN BOARD

学校法人 慈恵大学 行動憲章

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に貢献します。
5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

学校法人 慈恵大学 行動規範

- (目的)
第1条 慈恵大学(以下「大学」という)が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。
- (基本理念)
第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。
- (法令の遵守)
第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。
- (人間の尊重)
第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。
- (取引業者との関係)
第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。
- (反社会的勢力との関係)
第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。
- (過剰な接待の禁止)
第7条 正常な取引関係(患者関係含む)に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の受容を禁止する。
- (環境保護)
第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。
- (公私の区別)
第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。
- (日常の業務処理)
第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。
2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
 3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
 4. 会計処理にあたって、不透明、不透明な処理を行ってはならない。
- (虚偽の報告・隠蔽)
第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。
- (教育・指導)
第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。
- (告発)
第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確証した場合は、提案(告発)窓口へ提案することができる。
2. 提案者(告発者)については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。
- (監査・報告)
第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。
- (違反の処理)
第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。
- 附 則
1. 本規範は、平成17年4月1日から実施する。
 2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

創立百三十年記念事業募金

BULLETIN BOARD

寄付者名簿

・平成23年5月1日～平成23年10月31日までに戴いたご寄付
・ご芳名は敬称を省略し、五十音順に掲載しました

同窓生

(医)秋山会両毛病院
(医)上尾整形外科
(医)黄龍会小川こどもクリニック
(医)新生会豊後荘病院
(医)ドクターナカムラ武蔵小山医院
(医)恵会皆藤病院
株式会社メディカルシンクタンク
相澤久美子
藍澤茂雄
相澤純雄
赤司俊二
赤羽清彬
秋山竹松
阿部伸夫
荒井親雄
安藤秀樹
五十嵐良
今泉忠芳
今井健郎
今井那美
今川省
宇都宮正範
宇都宮幹子
宇都宮陽一
遠藤茂通
大橋力
緒方正名
岡本茂久
奥脇晴雄

小野寺昭一
小野誠
柏木博道
上村美穂子
川嶋正也
熊谷文弥
小林昭夫
駒田康人
小室理
小室舜一
斎藤博久
酒井聡一
酒井朋久・享子
榊原光利
櫻井進
皿井靖長
篠崎英雄
篠田伸正
柴本昭雄
清水久盛
白須朋子
鈴木昭男
鈴木裕視
須田富士雄
園部昌彦
高橋暁
高見澤重隆
武川吉和
竹野光彦
田郷寿正
谷野誠

田丸操
為永清吾
徳岡重孝
徳岡富喜
永田卓司
永野修
中山元二
野口順治
橋本信也
樋口善久
藤瀬清隆
堀内清
堀口正晴
眞柄直郎
正木拓朗
松本光彦
宮野佐年
村田守昭
森温理
諸岡暁
山口裕
山口吉康
湯橋十善
吉葉繁雄
渡部通英

同窓会支部会・クラス会

慈恵医大同窓会大田支部会員一同
慈恵医大同窓会神奈川県連支部
慈恵医大同窓会北海道支部一同
慈大昭56会一同

昭和36年卒業生一同
昭和46年卒同級生一同

父兄会

青木朗雄
勝又徳一
小島良雄
谷島豊
丹治英明
津田均
中田博一
西田淳二
野上博司
濱野信也
弘中貢
真野智子
森山秀樹
山本順一

教職員

伊藤文之
大井静雄
大西明弘
岡本愛光
菊池信介
坂井春男
真山大輔
須藤正道
武田信彬
三石純江
三石雄大

矢永勝彦
柳澤裕之
山崎哲資
山田尚
渡辺一裕
渡邊直熙
和田靖之
相沢良夫
相曾好司郎
阿部郁朗
荒井邦子
安藤勝己
石井克己
石井宣大
石塚愛有美
石渡賢治
市川恵子
市川暢子
井出晴夫
伊藤直樹
今出進章
岩瀬忠行
岩谷理恵子
近江禎子
大井田亘
大塚資郎
岡本友好
小川武希
勝田岳彦
加藤総夫
加藤庸介

門倉充世
茅島江子
狩野路也
川久保孝
河村稔明
菊地譲
北素子
北里多真美
北島里奈
工藤教子
熊谷智子
倉町智
児島章
小松一祐
酒田昭彦
佐藤千津子
佐藤雅也
塩森由季子
白石正孝
杉浦典郎
杉田耕一
杉本正樹
鈴木憲之
銭谷幹男
曾根田明弘
高島尚美
高橋則子
高橋徳伴
竹内常道
竹内行浩
田中久子

田村宏美
土屋恵子
中田瞳美
中村敏幸
中村幸生
仁木直江
忽滑谷和孝
根本淳
橋本憲子
長谷川英雄
濱裕宣
日比野幸子
平塚明倫
福士朝子
福森里美
藤田みゆき
藤野彰子
藤本尚樹
藤山康広
前田利美
増岡秀一
松浦博満
馬目佳信
宮本博康
村上友希子
粕山俊彦
矢崎志保子
矢野文章

山口喜一
山下紳子
山田美枝子
吉岡康男
吉村道博
渡辺孝子
渡辺裕子
昭和52年職員有志

一般個人

亀ヶ谷洋子
鈴木岳彦
鈴木乃里子
高木満里子
高木弓

企業・一般団体

(株)アヅマ
アルフレッサ(株)
株)MMコーポレーション
キングラン・メディケア(株)
積水メディカル(株)
データ・マネージメント株式会社
東京海上日動ファシリティーズ(株)
東邦薬品(株)
ミドリ安全株式会社港支店
(株)メデイセオ

匿名希望者は除いて掲載させて頂きました。
分割寄付のご芳名は初回のみ掲載させて頂きました。

学祖・高木兼寛先生は明治14年5月1日(1881)に、東京慈恵会医科大学の前身である成医会講習所を開設しました。成医会講習所開設以来130年の間、質の高い医療人を育成し、医療を通して社会に貢献するとともに、医療を支える研究の振興に努めてまいりました。

この間、医療は高度・専門化し、それに対応する専門医を育成するとともに、一方では総合的診療能力を備えた医師の育成が求められています。本学の使命を果たすためには、教育・研究施設の改善・充実を図り、附属病院の施設整備を行うことが喫緊の課題です。

本学は大学の教育研究施設の他に4附属病院を有しており、長・中期計画を立ててこれらの施設の整備を行っています。

これまで、平成12年(2000)には本院中央棟を、平成14年(2002)には大学1号館を完成させました。更に、本年1月には東京慈恵会医科大学葛飾医療センターも開院しました。

また、本院外来棟は開設以来40年を超え、病院の老朽化が進み手狭になっています。中央棟に隣接して外来棟を建て、患者さんの利便性を図るとともに、病院と大学の建物を整理し、機能的なキャンパスに改変することを視野に入れて建築計画が検討されています。また、順次、国領キャンパス、第三病院、柏病院の整備が必要となります。これらの基盤整備には莫大な資金が必要となり、大学も自助努力を重ねておりますが、資金の調達には限界があります。

本学の将来計画と学祖の建学の精神にご賛同賜り、これまで関係各方面から心温まるご支援をいただきました。ご協力賜りました方々の温かいご芳志に厚くお礼申し上げます。日本経済が低迷するなかで、東日本大震災が起き、日本の経済状況はより一層厳しくなっております。このような社会情勢の中で皆様にご協力をお願いするのは大変心苦しいのですが、皆様のご支援が必ずや社会に還元されることをご理解下さいますようお願い申し上げます。我々の使命を果たすためにさらに一層の努力をしておりますので、今後とも関係各位の全面的なご協力を心よりお願い申し上げます。

学校法人 慈恵大学 理事長
東京慈恵会医科大学 学長 栗原 敏



編集後記

今回の特集では、旧青戸病院がリニューアルされて誕生した「東京慈恵会医科大学葛飾医療センター」の特徴と目指す姿についてご紹介しました。大学病院でありながら地域の中核病院としての役割が期待される同院の新たな取り組みについてご理解いただければ幸いです。本誌では、創立130年を迎えて変わりつつある本学の姿をお伝えしていきます。より役に立つ法人誌にするためにも、是非、本誌をご覧いただき、ご意見やご感想をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

大学広報委員会委員長 阿部 俊昭

The JIKEI

2012 Winter Vol.18

発行	学校法人 慈恵大学
発行人	理事長 栗原 敏
連絡先	〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8 学校法人 慈恵大学 広報課
電話	03-3433-1111(大代表)
F A X	03-5400-1281
e-mail	koho@jikei.ac.jp
号数	第18号
発行日	2012年1月12日

<http://www.jikei.ac.jp/>